

生まれるいのちを支える仕事
女性の生涯に寄り添う仕事

助産基礎分野

助産師の資格を取得すること、および助産の専門職業人に必要な、高度な助産実践の能力を修得するコースです。
看護師の資格を持つ方(または取得見込みの方)が対象です。

〈修業年限〉2年
〈学位〉助産修士(専門職)
〈入学定員〉30名
〈取得資格〉助産師国家試験受験資格
〈修了に要する単位〉57単位

5つの特長

1 助産所を含む、計20単位の実習

2年間で「20単位」の学外実習が用意されています。1年次の病院実習では専任教員に加え、実習指導教員を実習の場に配置。実習施設ごとに複数の教員が(必要時には)24時間体制でサポートし、実習時の宿泊費の補助なども行っています。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、指定規則)で「11単位」の「助産学実習」を、助産研究科では「20単位」で履修します。出産期(分娩介助)だけでなく、妊婦に対する妊婦健康診査、保健相談の妊娠期ケア、産褥新生児ケアについても、質・量ともに充実した実習を行うことができます。

実習の取り扱い事例数

内容	2021年度修了生平均
保健指導	7例
妊婦健診	31例
出産期ケア・新生児期の母子ケア	10例
産褥・新生児期の母子ケア	13例

2 助産師教育の世界基準(18カ月以上)を満たした、実践能力の育成を重視した2年の教育課程

国際助産師連盟(ICM)は、2011年の南アフリカ大会において、「助産師教育の世界基準」として看護教育修了後の助産師基礎教育の期間を「18カ月以上」とし、「実践能力」を重視することを採択しました。助産研究科の修業年限は「2年間(24カ月)」です。また、専門職大学院として「実践能力を重視」したカリキュラムを組み、この世界基準を十分満たしていると言えます。

3 2年課程にしかできない、助産を深く丁寧に学ぶということ

指定規則では「31単位」を修得すれば助産師国家試験の受験資格が得られますが、助産研究科はその「約2倍」の「57単位」を修了要件としています。単位数が多い理由は、従来「助産学概論」に一括されている「倫理・国際・教育」といったテーマを「助産哲学・倫理」「国際助産学」「助産師教育論」としてそれぞれ深く学ぶためです。1年間の助産師教育課程では少ない時間で行っている内容を、助産研究科では丁寧に深く学修します。

4 先輩、院生にいつでも相談できる教育環境

助産研究科は、日本で唯一の「助産師養成のための専門職大学院」であると同時に、日本で唯一の「助産教育者のための養成機関」でもあります。「助産基礎分野」には、全国各地から助産師のエキスパートを目指す学生が集まり、「助産教育分野」には病院などの第一線で活躍してきた助産師が入学します。「助産基礎分野」の院生にとってそんな経験豊富な助産教育分野の院生は、「助産の現場」のことをいつでも聞くことができる存在であり、他にはない魅力です。また、2年課程である本研究科は、1年次の時は「先輩」がいて、実習や学習方法について気軽に相談できるのも心強いところです。

5 関心の強い分野に、一步踏み出す

女性の生涯を通じた性と生殖の健康支援の担い手としての助産師の役割を学ぶため、2年次に「発展・展開科目」があり、学生は「子育て支援」「性教育」「ウィメンズヘルス」「国際助産」の4つのテーマから選択履修します。

〈カリキュラム〉



※■印は選択科目

〈年次教育計画(2022年度予定)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	オリエンテーション	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
1年次			マタニティサイクル助産ケア基礎実習(6単位)		補講・試験期間	夏期休業			マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ(6単位)	冬期休業	学内学習	補講・試験期間
1年次											マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ(6単位)	
2年次		学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
2年次		マタニティサイクル独立助産実習(6単位)	ハイリスク助産演習・健康教育論Ⅱ	ハイリスク助産演習・健康教育論Ⅱ	補講・試験期間	夏期休業			学内学習(発展・展開科目)	冬期休業	学内学習(発展・展開科目)	国家試験
2年次			マタニティサイクル独立助産実習(6単位)						マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ(2単位)			修了式

実習科目

専門職大学院ならではの充実した実習内容。
豊富な臨床経験と、それをフィードバックする学びの場が自律した助産師を育てます。

1年次前期(6単位)

マタニティサイクル
助産ケア
基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

基礎実習で、助産の基礎をしっかり身に付けます。

妊娠期、出産期、産褥・新生児期に分けて実習を行います。対象をよく理解した上で、それぞれの期に応じて必要な情報を提供する「保健相談」を計画、実施します。また、分娩介助や褥婦と新生児のケアを行い、助産における知識と技術の基本を学びます。

学内カンファレンスを行い、学びを深めます。

妊産褥婦のケアを立案し、実践する傍ら、学内カンファレンスを行います。それぞれの事例を持ちよって知識や体験を共有し、ディスカッションしながら学びを深めます。

1年次後期(6単位)

マタニティサイクル
助産ケア統合実習Ⅰ

後期の実習で、基礎実習で学んだ知識と技術をさらに深めます。

基礎実習で各期に分けて実習した内容について、統合実習では、出産期、産褥／新生児期における複数の対象者を継続して受け持つことで、基礎実習で学んだ助産の知識と技術を統合し、さらに家族を含めた対象理解から助産ケアの学びを深めます。

継続実習で一事例を継続的・総合的に理解し、
助産ケアを実践する能力を養います。

統合実習では、妊娠から出産、入院中の産褥・新生児ケア、家庭訪問、産後1カ月までの継続実習も行います。対象を継続的・総合的に理解し、助産ケアを実践する能力を養うとともに、助産師の役割や専門職業人としての倫理観について統合的に学びます。

2年次前期(6単位)

マタニティサイクル
独立助産実習

開業助産所で「自然なお産」を学びます。

助産所の助産師の持つ卓越した助産技術をはじめ、妊婦さんと深く関わりながら「自然なお産」について実践的に学びます。妊娠から出産、産褥までを連続したプロセスとしてとらえ、身体の自然な力や個別性を大切に助産ケアを学ぶ実習です。

6週間泊まり込むことで「助産所のリアル」が見えてきます。

的確な判断力やリスクマネジメント(緊急時の医療との連携など)、優れた観察力が必要となる助産所での仕事を間近で見て、助産師の独立性、自律性、専門職としての倫理的責任などについて考察します。開業助産所の管理・運営・経営、さらに地域貢献にいたるまで、総合的に学びます。

2年次後期(2単位)

マタニティサイクル
助産ケア統合実習Ⅱ

母子の「複数受け持ち」で、これまでの学びを統合します。

1対1だったこれまでの実習とは違い、一度に複数の母子を受け持ちます。それにより生じる複雑な状況下において、優先順位を考えながら個別性に即した適切な助産ケアをする能力を養います。これまで学んできたことのすべてを統合しながら自ら判断し、実践する最後の実習です。

臨床現場における自分の役割を考えます。

助産チームのリーダーに付いてチーム内の業務を円滑に進める「リーダー役割」を学ぶ一方、チームの「メンバー役割」についても考えます。また、カンファレンスなどの連絡業務、記録の大切さを理解し、職業人となる前に自らの課題を明らかにします。

実習施設(2022・2021年度)

病院

- 天使病院(札幌市)
- 札幌東豊病院(札幌市)
- 札幌白石産科婦人科病院(札幌市)
- 市立札幌病院(札幌市)
- 手稲溪仁会病院(札幌市)
- 札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル(札幌市)
- 砂川市立病院(砂川市)
- 帯広協会病院(帯広市)
- 日鋼記念病院(室蘭市)
- 釧路赤十字病院(釧路市)
- 村岡産科婦人科医院(福島県いわき市)

助産所

- 助産院エ・ク・ボ(札幌市)
- みやした助産院(神奈川県)
- 山本助産院(神奈川県)
- 助産院さくらバース(神奈川県)
- とわ助産院(神奈川県)
- バースあおば(神奈川県)
- めぐみ助産院(神奈川県)
- いなだ助産院(神奈川県)

その他

- 札幌市子育て支援総合センター(札幌市)
- 札幌市東区保育・子育て支援総合センター「ちあふる・ひがし」(札幌市)
- 北星学園女子中学高等学校(札幌市)

発展・展開科目

専門職大学院ならではの充実した実習内容。
豊富な臨床経験と、それをフィードバックする学びの場が自律した助産師を育てます。

子育て支援

子育ての実際を見て、助産師にできることを考える。
妊娠から関わった母子を継続的に支援します。

1年次に妊娠から産後1カ月まで関わった母子を10カ月経ってから訪ね、実際に子育てをしてみて感じた悩みや喜びについて話を聞き、助産師の子育て支援における役割について考察します。妊娠中から子育て期間まで継続して関われるのは、2年間のカリキュラムならではの、長期間にわたってより深く相手を理解することで、出産後の継続した支援が効果的に行えます。また、子育て支援センターの活動に参加し、行政や多職種との連携についても学びます。



ウィメンズヘルス

現代女性が直面しているさまざまな問題。
その性と心の事象について幅広く学びます。

出生前診断や不妊治療、ドメスティック・バイオレンス、思春期や更年期特有のメンタルヘルス。女性が生涯で直面するさまざまな性と心の問題について、幅広く学びながら理解を深めます。更年期や思春期の治療を行う外来での関わりを学ぶ機会があります。それぞれの問題を身近なこととしてとらえ、助産ケアについて考える科目です。

婦人科外来での実習

婦人科での診察や治療を見学する実習があります。周産期以外の女性の悩みを聞く機会や、漢方薬処方や鍼灸など東洋医学に基づく治療などを実際に見る機会をととして治療やケアへの理解を深めます。

国家試験に直結する講義

生殖医療・不妊治療、DV(ドメスティック・バイオレンス)支援、マタニティブルーや産後うつなどの婦人科領域の心身症、避妊相談など、国家試験でよく出題される項目についてより詳細に学ぶことができます。

性教育

中高生への性教育授業を自分たちで企画する。
「教える」ことを学ぶ中から、たくさんの発見があります。

中学生、高校生、それぞれの年齢に合わせて内容をコーディネートしながら、自分たちで企画・立案した性教育授業を行います。思春期の特徴的な考え方や行動、価値観を理解した上でニーズに合った情報を「ピアカウンセリング(同じ立場の者同士のカウンセリング)」の手法を用いて提供します。助産師としてののちと性に対する問題にどう関わっていくかを、授業づくりを通して考えを深めます。



国際助産

海外での助産の現状や
母子保健活動について学びます。

開発途上国をはじめ海外の母子保健活動の状況や国際機関の関わり、日本の国際援助など海外のお産や健康問題について学びます。またその一環として2018年度は、マダガスカルのアベマリア産院で実習を行い、2019年度はベトナム・ハノイで、現地で行われている母子ケアについて理解することで、その特殊性や日本との違いについて考察しました。



人間性豊かな
助産師を育てる。
その能力を備えた
教育・指導者を育成する。

助産教育分野

5年以上の臨床経験を持つ助産師を対象に、自らの助産学と助産実践を再点検し、助産教育者に必要な教育計画の立案、授業や臨床指導の理論などの学修ならびに教授・臨床指導実習を通して、教育・指導の基本的な能力を養うことを目的としています。

〈修業年限〉1年6カ月
〈入学定員〉10名
〈学位〉助産修士(専門職)
〈修了に要する単位〉45単位

4つの特長

1 後進の助産師を教育・指導する大切な役割を果たす力を育成

助産教育分野では、自らの助産観と助産実践を再確認するとともに「助産・看護教育科目」を12科目設け、助産師教育の専門家に必要な「助産師育成のためのカリキュラムの作成」や「学習・評価の理論」、「授業・臨床指導の演習・実習」などを体系的に学び、後進の助産師を教育・指導する能力を養成します。修了生は、「助産修士(専門職)」の学位を持つ助産師教育の専門家として、臨床現場や助産師養成施設で活躍しています。

2 助産基礎分野大学院生との関わりが生きた教材に

助産基礎分野大学院生と合同の授業があり、院生学習室で日常的に接する環境にあるため、助産学生が学内でどのように学び、どのような気持ちで実習に臨むかを知ることができます。また、助産基礎分野大学院生からの質問や相談も多く、助産教育のスキルを上げる実践的な機会となります。同時に助産の教員がどのような教育観を持って学生支援を行っているかを身近で学ぶこともできます。

3 「開業助産所」での実習

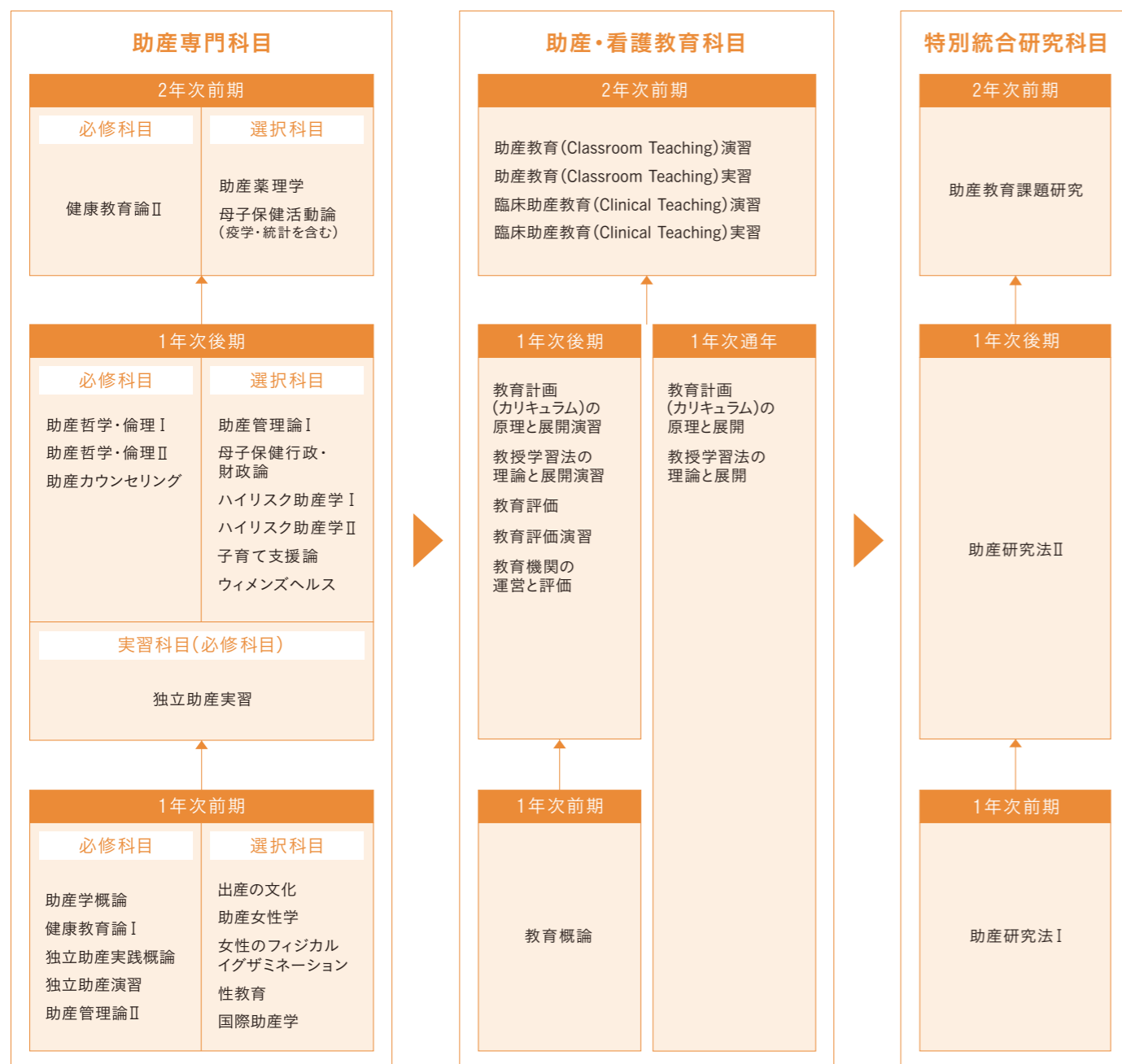
開業助産所での6単位の「独立助産実習」は、従来の助産師教育にはなかった実習です。改めて女性に寄り添い、女性の身体に備った自然な力を最大限に引き出し、助産師本来の仕事に向き合う経験を持って、後輩育成に臨みます。

4 「1年6カ月」で助産修士(専門職)の学位を取得

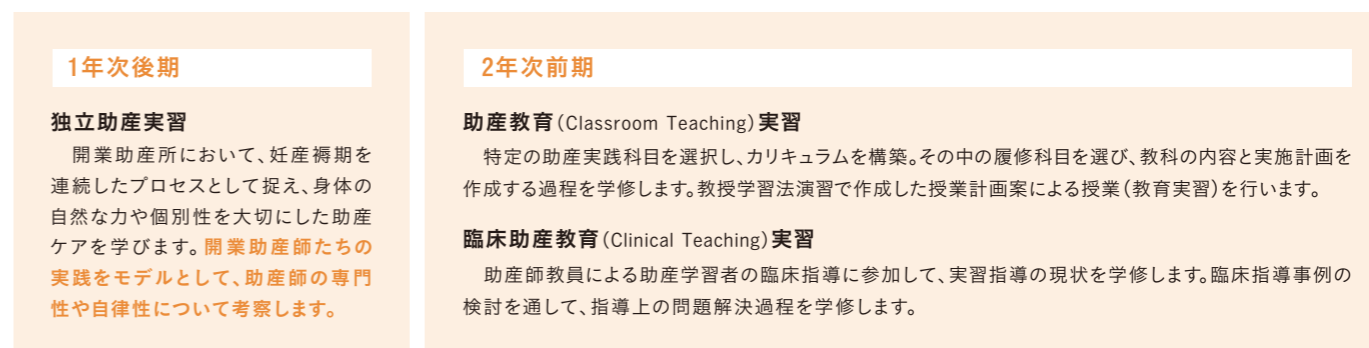
助産師としての実務経験を十分に積んだ方に対する教育課程のため、「1年6カ月」の期間で「助産修士(専門職)」の学位を取得することができます。助産教育のスキルを向上させた上で、通常の大学院よりも半年早く現場に戻れます。



〈カリキュラム〉



〈実習展開〉



〈年次教育計画(2022年度)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	入学式・オリエンテーション	学内学習 (助産・看護教育科目)				補講・試験期間	夏期休業	学内学習 (助産・看護教育科目)	独立助産実習(6単位)	冬期休業	学内学習 (助産・看護教育科目)	補講・試験期間	春期休業
2年次		学内学習 (助産・看護教育科目)			学内学習	夏期休業		修了式					

〈修了生インタビュー〉



システムティックな指導法を学び、自分を客観的に評価できました。

帯広協会病院 勤務(産科看護師長)
助産研究科 助産教育分野 2015年9月修了

助産師として東京や帯広で20年ほど勤務し、2014年に一度休職して天使大学大学院助産研究科に入学しました。駆け抜けるように仕事をしてきたので一息つきたかったのと、新人や実習生に体系的に教える力が必要だと感じたのがきっかけです。スタンダードな助産教育を学び、授業を受けながら、自分はどういう助産師なのかと一旦見つめ直すことができたのは本当に有意義でした。それまでは助産師としての自己評価が低かったのですが、大学院に身を置くことにより、「これができていればいいんだ、間違ったことはしてなかったんだ」と自分を客観的に評価することができました。

現在は産婦人科病棟の師長として部署の管理業務を担っています。助産師の喜びは、平たく言えば「お母さんと赤ちゃんが健やかである

こと」であり、スタッフ達が母子をサポートできるような環境やシステムを整えていくことが自分の役割だと思っています。その他に私は看護部の新人研修を担当していますが、研修企画・運営において教育分野での学びがとても役立っていると思います。中でもリフレクション(内省)に関しては自分なりに深く学習しました。プロフェッショナルとは、実践を振り返り、それを糧に更なる向上を目指す者だと考えているので、そのような看護職を育てていきたいと考えています。

また、同じ志を持つ仲間達と出会うこともできました。今もよく連絡を取り合っており、進学をしたことで得ることができたかけがえない財産だと思っています。

なぜ「助産教育」という学びが必要なのでしょう

助産師として優れた技術を持っていれば良い助産師教育者でありうるでしょうか。助産師教員は、助産師になることを志した後継者に、助産師に必要とされる知と技(わざ)と心を、その一人ひとりの個性に合わせて教育をすることが求められています。そのためには、助産師として十全な実践能力を持っていることは当然ですが、さらに教育職としての学びが必要です。卒業時に到達すべき能力を入学時から卒業時に向かって合理的に企画するカリキュラムの作成過程、教授学習の理論や評価の学び、授業の立案や臨床指導の実習、教育機関の運営・管理など、助産師教員・臨床指導者のための教育課程を計画しました。専門職助産師の役割責務として後継者の育成を積極的に行い助産師の専門的能力の伝達・習得のための支援をすることがあげられています。臨床経験を積まれた助産師の方がたが、獲得された助産実践能力に教育能力を加えることによって助産専門職の質と量の向上に寄与することになるのではないのでしょうか。

天使学園理事・天使大学客員教授 近藤 潤子